

令和 5 年度 施策評価表

施策	1601 観光交流のまちづくり	施策担当部	産業振興部	部長	浦山 優
		施策担当課	観光振興課	課長	富永 彰
施策の方針	豊かな自然や歴史的・文化的な遺産等、本市の観光資源を活用し、滞在型観光やグリーン・ツーリズムの推進を図る。また、スポーツ大会などコンベンションの誘致強化に努める。				
関連するSDGsのゴール	  				

【DO（実施）】

後期基本計画（令和3年度～令和7年度）における数値目標

指標名	単位	基準値 (R1)	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R4年度	
			R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	達成率	進捗率
① 観光客数	人/年	2,080,000	2,177,000 1,636,351	2,283,000 1,822,962	2,388,000	2,494,000	2,600,000	79.8%	70.1%
② 市内宿泊施設の延べ宿泊者数	人/年	405,000	403,000 345,943	415,000 392,164	427,000	439,000	450,000	94.5%	87.1%
③ 市内民泊施設の延べ宿泊者数	人/年	555	570 3	577 17	585	592	600	2.9%	2.8%
④ 観光イベント来場者数	人/年	567,000	569,000 310,187	570,000 439,326	571,000	572,000	573,000	77.1%	76.7%
⑤									

施策達成状況の説明

- ① ”観光客数”は、「ウィズコロナ」下での社会経済活動の再開による旅行需要が徐々に回復傾向となったことや行動制限がない状況が続いたことにより、前年実績値を上回ったものの、目標値は下回った。
- ② ”市内宿泊施設の延べ宿泊者数”は、全国旅行支援の実施や行動制限がない状況が続いたことにより、前年実績値を上回ったものの、目標値は下回った。
- ③ ”市内民泊施設の延べ宿泊者数”は、新型コロナウイルス感染症の影響による海外からの教育旅行の受入れが皆無の状況に依然として変化が見られなかったため、前年実績と比べ微増に留まり、目標値を下回った。
- ④ ”観光イベント来場者数”は、夏越花火大会が3年ぶりに開催されるなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっていたイベントの再開により、前年実績値を上回ったものの、目標値は下回った。

施策経費

(単位:千円)		R4年度 決算	R5年度 予算	R6年度 見込	特記事項
内訳	事業費	38,319	41,209	69,738	
	国庫支出金	1,806	2,374	2,449	
	県支出金	1,075	2,495	1,935	
	地方債	0	0	0	
	その他	6,536	5,937	7,846	
	一般財源	28,902	30,403	57,508	
人件費	17,039	19,035	—		
フルコスト	55,358	60,244	—		

施策の概要（細施策）

160101	歴史や自然等を活かした滞在型観光の推進	滞在型観光を推進するため、歴史・文化、自然など、本市ならではの観光資源を活用したまち歩きや体験プログラムなど、観光メニューの開発を行います。 また、新幹線開業を踏まえ、「大村市新幹線開業アクションプラン」に沿って、情報発信等のプロモーション活動や観光ツアーの企画等の観光商品づくりなどの取組を推進します。
160102	グリーン・ツーリズムの推進	本市の豊かな自然環境等を活かした魅力的なグリーン・ツーリズムを更に推進するため、関係機関と連携し、農業体験や農家民泊などの体験型観光の強化に努めます。 また、多様な外国人旅行者に対応するため、受入農家に対する支援を行います。
160103	観光イベントの充実	「おおむら花まつり」、「おおむら夏越まつり」など、イベント内容の充実を図り、観光客の誘客に努めます。 また、地域の祭りや行事などを観光イベントとして活用します。
160104	コンベンション誘致の強化	大村市観光コンベンション協会や長崎県観光連盟、長崎県スポーツコミッション等と連携し、各種会議・大会やスポーツ大会・合宿など、コンベンションの誘致強化に努めます。

【CHECK (評価) 施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

【歴史や自然等を活かした滞在型観光の推進】
 前年9月23日の西九州新幹線開業により大村市へのアクセスがさらに向上したことや、新型コロナウイルス感染症の5類移行など、これまでより誘客のための環境が整備・改善された。これらを生かすために、近隣自治体との観光交流により連携を深め広域周遊などの積極的なPR活動や、キリシタン史跡などの既存の観光資源、日本遺産のシュガーロード、ワーケーションのほかに、新たな観光素材である大村車両基地を活用した商品開発を推進する必要がある。

【グリーンツーリズムの推進】
 農泊などの体験型観光が国内外からの誘客を見込める重要なコンテンツとなっている。特に外国人旅行者は、従来の”モノの消費”から体験などの”コトの消費”に変化しているため、トレンドを押さえた情報発信や安定した受入体制を構築する必要がある。

【観光イベントの充実】
 近年、開花時期が早まっているため、「おおむら花まつり」や「しゃくなげまつり」を開花状況に応じた開催が今後も必要である。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、人流が回復し、今後さらに活発になると思われるため、積極的な情報発信や参加者自らがSNSなどで情報発信しなくなるようなイベントを開催する必要がある。

【コンベンション誘致】
 各種スポーツが施設が少なく、宿泊施設の収容人数が限られているなど大きな制約があるが、大村市観光コンベンション協会と連携し、各種競技団体や大学などへの誘致活動に取り組む必要がある。

【ACTION (改善・改革)】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

【歴史や自然等を活かした滞在型観光の推進】
 新たな観光素材である大村車両基地については、一般開放のほか、”博多総合車両所（那珂川市）”を活用したふるさと納税に対する返礼品「博多総合車両所見学ツアー」や”熊本総合車両所（熊本市）”を活用した「新幹線お仕事体験ツアー」と同様の取組を実施していただけるようJR九州に働きかけを続ける。

【グリーンツーリズムの推進】
 新型コロナウイルス感染症への対応については、落ち着きを見せているが、長崎空港国際線は再開しておらず、インバウンドを取り巻く環境は厳しい状況にある。国際線再開までの間に、受入体制の構築やトレンドを押さえた効果的な情報発信を国内外に向け、積極的に行い、誘客の増を図る。

【観光イベントの充実】
 「おおむら花まつり」などは、桜などの開花状況に応じて、（一社）大村市観光コンベンション協会との連携を密にし、柔軟に開催する。また、情報発信についても、次年度の集客につながるような、満足度の高いものを実施する。

【コンベンション誘致】
 大村市観光コンベンション協会との連携のもと、本市で開催可能なスポーツ種目などを整理するほか、誘致活動の一環として、本市の魅力を全国に周知するため、積極的な情報発信を行う。

令和6年度新規事業

事業名	担当課	令和6年度見込	対象・事業概要など
		事業費（千円）	
1			
2			
3			
4			
5			
		0	